

フェーズ3 ～実施・検証～



✓	Check! (実施しているものにチェック)	参考
□	<開発会議>実施状況の把握・検証と支援 例：保育者や小学校教員、保護者等にアンケートでヒアリング	
□	カリキュラムの【共通の視点】を実践に生かす	事例イ～ケ
□	教材としての「環境」の活用について保育者と小学校教員で一緒に考える機会の設定	(参考資料) 5歳児の環境
□	子どもの自発的な交流が生まれるよう、保育者と小学校教員で協働して工夫	事例オ

★実施のポイント

○架け橋カリキュラムが実践に生かされているか、実践事例をもとに検証する

カリキュラムは作成して終わりではありません。本資料のような実践事例の収集やフェーズ1～2のワークの繰り返しにより、検証していくことが大切です。カリキュラムの中にも、写真をいくつか入れてみることで、架け橋カリキュラムの見直しにもつながります。

写真や動画を持ち寄り、【共通の視点】により語り合うことも効果的です。

○フェーズ2のカリキュラム検討中も積極的に実践事例の収集・検証を

カリキュラムを全て完成させてから実践ではなく、子どもの姿をイメージし、保育や授業の実践について語り合いながら作成していくことが大切です。

子どもが主体的・対話的に遊び込んでいる（学び込んでいる）写真や動画、記録等を残しておき、カリキュラム検討の際にも活用していくとよいでしょう。

保育所

5歳児(6月)

夢中になって遊び込む

～宇宙船を作ろうよ!～

言葉による伝え合い

思考力の芽生え

窓に貼ってあった黒いビニールを何気なく爪で引っかいた際に、偶然に小さな穴が連なった。その穴から差し込む光を見て「キレイ、銀河みたい」とつぶやく子ども。友達とともに何度も光を指でたどり、爪で引っかき銀河を増やして楽しむうちに、「ここを宇宙にしよう!」と、遊びが動き始めた。

【この時期のねらい】 友達同士でやりたいことを伝え合いながら、同じ目的に向かう。

展開

興味・関心・好奇心



「木星ってすごく大きいね」
「茶色っぽくてしましなんだね」

繰り返し試す・こだわる



「天王星の次は海王星だっ」
「地球と同じ青い惑星なんだよね」

面白さの
追求

「うどんカップと紙袋を合体したら、
宇宙服の頭になった!」
「ぼくも作りたいなあ!」

本物への
憧れ

「宇宙は筋肉や骨が弱くなるから、
毎日2時間筋トレやるんだって!」
「本当だ。どっちにも重りをいっぱい
つけよう!」

環境の構成

○子どもが思いを形に表現できるように、アルミホイルやカラーペン等、身近な素材や材料を自由に手に取って試せるように、整えておく。

○友達の思いや考えに触れたり、情報を集めたりしながら形にするために、遊び込む時間を十分に設ける。

○図鑑で調べたり、新たな発見や気付きにつなげたりしながら、太陽系に興味をもつ一人の子の関心を他の子へとつなげ、目に留まりやすい場に惑星の配列図や特徴などの情報を提示し、友達と共有できるようにする。

○友達と試したり工夫したりできるように自分たちで遊びの場を設定していく。

○家庭と園とが遊びの過程を共有し、育ちを喜び合えるようにドキュメンテーションなどを活用し、遊びを通した子どもの育ちを共有していく。

○一人一人が自由にアイデアを出し合い、自分たちがやりたいことに挑もうと思える、安心できる場を保障する。

先生の関わり

・子どものつぶやきを拾い、同じ遊びに集う友達の興味の方向性を一緒に探り、関心をもって頷くなど共感した姿勢で遊びを支えていく。

・より本物に近づけたいと願う気持ちを尊重し、一人一人の思いを受け止め、宇宙について関心をもって一緒に調べたり面白がったりする。

・惑星の大きさや色の違い、重量等を探究する面白さを感じたり、情報を知ることを楽しんだりする姿を支えていく。

・クラス全体で遊びの振り返りの時間を使い、宇宙へのイメージや作り上げる過程を異なる遊びをしていた子に対しても共有していく。

・子ども同士の対話が深まるために、どのような意見にも耳を傾け、子ども同士で話し合いが深まるように、保育者が橋渡しとなって遊びの展開を整理したりみんなとの合意を図ったりする。

・家庭から持ち寄った空き箱など、身近な素材から遊びに必要な新たな道具を生み、面白さを共に感じられるように、保育者も子どもたちが工夫しながら作る姿に共感していく。

・宇宙飛行士が宇宙船内で筋トレをしている写真に子どもたちが注目し、力を合わせてダンベルを作る姿を温かく見守る安心して挑戦していけるように、場の雰囲気をつくる。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

友達とイメージを共有することで、一人一人の発想が豊かになり、対話が広がった。積極的に考えを出し合い、試行錯誤を繰り返し、新たな発見や挑戦につながっている。友達と遊び込む充実感や満足感を味わうことが、就学時の学びに向かう力につながっていくと考えられる。

【小学校と共有するために】

面白さに気付き始めている姿を自分の興味や経験からイメージを広げ、同じ目的に向かって友達と一緒に夢中になって遊んでいる姿を自由に参観できるようにする。

保育所
5歳児(6月)

夢中になって遊び込む ～いろいろな植物で染めてみよう～

健康な心と体

自然との関わり・
生命尊重

地域の文化や伝統に親しんでほしいという保育者の願いから、梅染めを体験した。自然物から色が生まれる不思議さを知り、子どもたちは草花を探し、染めたらどのような色になるのだろうと、友達と予想しながら試すことを面白がり、染め物遊びを繰り返し楽しんでいる。

【この時期のねらい】 友達と試したり考えたりしながら、五感を通して自然物を使った遊びを楽しむ。

展開

興味・関心・体験



「梅がピンクだったから、ツツジもピンクかな」

「葉っぱも一緒に染めたからかな」

やってみよう



「どうして水は茶色なのに、布は染まらないんだろう」

「梅の時はグツグツしていたよ。お湯に入れてみたらいいんじゃない?」

試す



「皮がきみどり色だから、きつときみどり色に染まるはずだよ」
「え? トウモロコシは黄色いから、黄色に染まると思うよ」

さらなる探究が生まれる



「トウモロコシの皮は染まらないね。じゃ、給食の人参の皮は?」
「おやつのパナナの皮も! 花壇の赤シソも! いろいろ染めてみよう」

環境の構成

○梅染めした布を、子どもたちの目に留まるスペースに飾り、好奇心が膨らむ機会を作る。

○自分で様々な草花を探し、染め出すことを十分に試し、楽しむように、ザルやボウル、すりこぎ等の道具の準備をする。

○給食に使用する玉ねぎの皮を子どもたちと一緒にむけるように、給食室とのつながりを意識する。

○梅染めの際に使用したガスコンロや鍋も控えておき、子どもたちの気付きから進められるように準備しておく。

○異年齢児への興味や関心も広げていけるように、様々な子どもたちが行き来する見晴らしの良いウッドデッキで皮むきを行う。

○一人一人が野菜の皮や実の色、匂い、感触など五感を通して味わえるように、十分な量や時間を確保する。

○様々な植物を染めてみたい好奇心や探究心を育むために、思い立った際にすぐに試せるように布は十分に準備しておく。

○みんなが見える場に染め布を飾ったりドキュメンテーションを掲示したりして、直接遊びに参加していない友達へも遊びの共有を図る。

先生の関わり

・子どもの発想や予想外の出来事を一緒に面白がり、どのようなアイデアであつても肯定的に見守る。

・保育者がモデルとなるように染め物遊びを楽しむ姿を子どもたちと共有し、挑戦しやすい雰囲気を作る。

・食材の皮を遊びに使うために調理員との情報共有を図り、子どもたちにとって給食室も身近であることを実感できるようにする。

・子どもの考えより先走りせず、子どものつぶやきを拾い、応答的な関わりを心掛ける。

・同じ空間に異年齢児が集い、助け合いながら皮むきをする様子を見守り、年齢を超えてワクワクを共感できるように支えていく。

・トウモロコシの皮の染まる色を予想し、友達と伝え合う姿を保育者も関心をもって聴き、それぞれの意見を受け止めていく。

・予想通りにならない疑問や染める工程を振り返り、「どうして?」の問いを友達同士で共有し、対話が深まるように保育者も共に問いを立て、心の動きに丁寧に寄り添う。

・子どもたち自身が遊びを振り返ることができるように掲示を工夫し、ワクワクしながら探究していく遊びが継続できるように支える。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

保育所保育指針の保育の内容「環境」の(ア)ねらい②に「身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする」とあるように、子どもたちは植物の色や匂い、感触を味わい、自分たちの予想と経験から不思議さや面白さを楽しんでいる。自発的な遊びに友達が加わり、繰り返し試すことを喜ぶ姿が学びの芽生えとなり、探究的な学びへとつながっていく。

【小学校と共有するために】

子どもが身近な環境に応答的に働きかけ、友達と探究しながら遊び込み、対話する様子をドキュメンテーションや保育ウェブ等で可視化し、交流の場で幼児期の遊びの中の学びについて共有できるようにする。

幼稚園
5歳児(9月)

夢中になって遊び込む ～これが運動会のシンボルだ！～

豊かな感性と表現

協同性

日頃から共有スペースで画材を自由に選択し、自分らしさを表現して楽しんでいた子どもたち。運動会が近づくと、「この作品を看板にしようよ」と思いを保育者や友達と伝え合いながら同じ目的に向かっていく楽しさを味わうようになった。

【この時期のねらい】イメージを伝え合いながら、友達と表現する楽しさを味わう。

展開

表現する



「ピンクきれいだから、こっちはピンクっぽい色をたくさん使うね！」
「わたし、『ぬ』が好きなんだー」



「手で塗ってく」「足もやってみよう」
「これもきれいだよ」

目的を共有する



「運動会の看板にしようよ」
「下書きするから、ここ塗って行って」

シンボルとして設置する



「力を全部出して、思い切り走るぞ」
「がんばろうね」

環境の構成

○保育室でなく異年齢児も活用できる共有スペースを遊び場にする事で、表現することに制約がないと感じられるようにする。

○広い空間で取り組むことができるようにする。

○絵の具やクレヨンなどの画材や様々な形の模造紙などがあり、自分たちで選択できる環境をつくる。

○遊び込むことで満足感が得られるように十分な時間と何枚でも繰り返し楽しめる量を準備する。

○共有のスペースから保育室に場所を変え、同じ目的に向かう友達と表現できる場を準備する。

○運動会のメインとなる場や入退場門、自分たちの待機場所など目に入る場に設置する。

先生の関わり

・幼児が、もっと絵の具を使って絵を描いてみたいという思いを実現できるようにどんな場がよいのか一緒に考えていく。

・のびのびと表現できるようにそれぞれの表現を認めていく。
・友達との表現の違いや様々な表現が組み合わせることの面白さに気付いていくように知らせていく。

・みんなで集まった時など、各画材の特徴などを伝え合えるように話題にしていく。

・完成した作品を掲示したり、発表したりすることで次の製作の意欲につなげていく。

・「運動会の看板にしようよ」という幼児の提案を友達に知らせる機会をつくり目的を共有し、同じ目的に向かう力を支える。

・目的を共有する姿や役割を分担しながら進めていく姿を認めていく。

・異年齢児や保育者が出来栄に感心していることを伝え、幼児が達成感を味わったり誇らしさを感じたりできるようにする。

・今回の成功を振り返り、次の意欲につなげていく。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

その後も積極的に絵の具を使い、色の組合せの面白さなどを楽しみ自分らしい表現に自信をもつようになっていった。自分たちで考えたことが他者に認められた経験が主体的に学ぶ姿勢につながったと考える。

【保護者と共有するために】

運動会の際に入退場門や園舎入り口、幼児用テントに設置するなど保護者の目に入る場所に多数設置し、製作過程をドキュメンテーションで共有した。

幼稚園
5歳児(1月)

子ども同士の交流から ～小学校でワクワクチャレンジ～

社会生活との関わり

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

小学生から「小学校でやってみたいことは何か」という手紙をもらい、幼児が思い思いの内容を書いて(教師の代筆含む)やりとりをしたことから交流が実現した。小学生が準備した活動を紹介し、幼児が選んで交流したことで、興味のある活動を夢中になって楽しんでいった。小学生と存分に関わることができ、憧れと就学への期待につながった。

【この時期のねらい】小学生との交流を楽しみ、就学することの期待を膨らませる。

展開

保育参観に来た 小学校の先生との交流



「小学校の机に座ってみたいなあ」
「小学校の雲梯とかすごく高いんだよ。
やってみたい」

やってみたいことを選択



「どれにしようかな学校探検に
しようかな」
「ぼくは、ドッジボールしよう」

やってみたいことへの挑戦



「小学校の雲梯高いけど、できるよ」
「もっと色々な遊具にもチャレンジ
したい」



「書ける字もあるけど、難しい字も
あるんだよなあ」
「早くもっと教えてほしい」

環境の構成

○小学校の先生が保育参観に来た際に自己紹介をしたり、質問したりする場をつくる。

○小学生からの手紙を掲示したり、手の取りやすい場所に置き友達との話題になりやすいようにする。

○小学生からの手紙に返事を書きたいという思いを実現する場や十分な時間をつくる。

○小学生の体験活動の紹介で幼児の興味を引きつけられるように全員が見える場所に座れるようにしたり、拡声器やマイク等で聞こえるようにしたりする。

○事前に幼児が参加したい活動を聞き取っておき、一人一人が満足感を得られるように準備する。

○運動遊びにおいては、小学校と連携し、安全面の配慮をし身体的、発達的に無理のない環境を整えておく。

○ひらがなや数字など個人の興味関心に合わせて体験できるように児童の配置を工夫する。

先生の関わり

・小学校の話題を出す中で、「小学校の先生がみんなの素敵な姿を見に来るよ」(保育参観)と伝え幼児の期待感を大切にしていく。

・小学校と保育参観の際の関わりについて事前に打ち合わせをし、幼児が親しみやすい雰囲気をつくっていく。

・小学校の先生との会話や手紙から、小学校の様子についての情報を共有していく。

・幼児が手紙を書きながら小学校でやってみたいことへの期待感に共感していく。

・小学生による活動の紹介を幼児と一緒に参加し、小学校でできる様々な活動への意欲を支えていく。

・それぞれの活動が充実したものになるように必要に応じて援助していく。

・幼児と小学生の交流が十分に図れるように必要に応じて仲介していく。

・幼児の文字や数字について興味や習得の差を理解し楽しみながら体験できるように寄り添っていく。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

小学校での体験により、就学への興味関心が高まり、小学生が付けていた胸章を作るなどして楽しむ姿が見られた。小学生の気分を味わいながら期待を膨らませて生活する様子がかがえた。

【保護者と共有するために】

幼児期の学びが小学校にもつながっていることや、幼児期に培った自信が不安や心配を乗り越える一因になることを知らせたい。

幼稚園

5歳児(2月)

夢中になって遊び込む

～カリン風呂っていい匂い!?～

協同性

健康な心と体

野菜や果物作りに興味があり、2月には干しもの作りをしてミカン風呂などを楽しんでいた。カリンの実を通園路で見つけると、甘い香りに驚き、「食べてみたい」と言って興味をもち始めた。友達とカリンの実を切ったり種をとったりしながら、友達と発見や気付いたことを伝え合っていた。カリンを干しものにしてみたが、食べられないと分かったら風呂に入れてカリン風呂にしようと思い、友達とお湯運びを繰り返しながらカリン風呂を楽しんだ。

【この時期のねらい】共通の目的に向かって友達と遊びをやり遂げる。

展開

興味・関心・気付き



「カリンって甘い匂いだし、おいしそうだけど、すごく硬くて切れないよ」

試す



「硬くて食べられないから干しものにしてみよう」「いい匂いだからお風呂に入れたらいいかもしれないね」

共通の目的に向かって



「ポリタンク見つけてきたよ」
「みんなで協力してお湯を運ぼう」
「いい匂いするし、気持ちいい！」

環境の構成

○カリンは食べられるかもしれないから切って確かめたい、中身を見てみたいという思いを実現できるようにナイフやトレーなど子どもたちに合うサイズのものを整えておく。

○切れ端や種などを入れる容器を準備し、場を整えながら進めていけるようにする。

○日々少しずつ変化する干しもの様子に目を向けられるように保育室から近い場所や風が抜ける場所を確保し、干しもの変化をクラスの友達にも知らせ情報を共有できる機会をつくっていく。

○安全面を考慮したり心地よさを感じたりできるように気候に合わせたお湯の温度設定を行う。

○お湯がこぼれてしまった時に子どもたちが対応できるように掃除用品の準備をしておく。

先生の関わり

- ・カリンの果実の香りや手触りに興味をもつ子どもたちの気付きや発見に共感的に関わる。
- ・子どもたちのやってみようという気持ちや試したい思いに耳を傾け、どのような方法で行うのか一緒に考えていく。
- ・見た目がリンゴに似ているけど香りが違うことや、甘い香りがするから食べられるのではないかなど、対話的なやりとりを通して、一人一人の気付きや仮説などを膨らませていく。
- ・子どもの気付きや発見したことに驚いたり感動したりしながら思いを共有していく。
- ・友達と協力して繰り返してお湯を運ぶ姿など根気強く目的に向かう姿を認めたり励ましたりして支えていく。
- ・カリン風呂の香りや湯加減、子どもたちなりに感じた効果などを会話の中から引き出し、気付きや発見が周りの友達に伝わるようにする。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

友達と情報を共有しながら主体的に遊びを進め、友達と最後までやり遂げる経験を積み重ねることで、思考力や表現力の基礎をつくり、小学校での主体的な学びへとつながっていくと考える。

【小学校と共有するために】

遊びや活動が、一人一人の思いを友達と交流させることで発展し、幼児期の深い学びや探究的な活動につながっていくことを発信していきたい。

5 歳児の遊びと環境の構成 「やってみたい」の芽が膨らむ環境づくりを

素材や道具が使いたいときに使える環境

遊びや製作で使う素材は、子どもが使いたいときにイメージに合う素材を取り出せるように、種類や大きさ等に分けておきます。多様な素材に触れられる環境を整え、子どものイメージが膨らむようにしています。



材料に合わせて道具を選べる環境

子どもがダンボールにセロハンテープを何枚も重ねて貼ったり、硬いものにハサミで穴を開けようしたりすることがあります。素材や作るものに合わせて適切な道具などを使えるよう、子どもが試せる環境にします。目打ち等も保育者に見守られ、安全な使い方を知っていきます。



安心と挑戦に答える環境

園庭に、高低差がある遊具や整地しない凸凹の環境を作ること、身のこなしや工夫、挑戦など、自分の力を繰り返し何度も試すことができます。自分一人で、友達と一緒に、様々な遊びの中で開放感を抱きながら十分に体を動かす心地よさを味わうことにつながっています。



気付きや発見を生む環境

園内には、花壇やプランター、畑等あることが多いでしょう。子どもたちとコンポストを作り、落ち葉や野菜の端、米ぬか等で有機の土を作ることから始めたいものです。そこには生き物が集まり、命の循環への気付きや様々な発見が生まれます。



自然との関わりを深める環境

様々な草花や木々、丘など、生き物と出会う環境を整えます。子どもたちは生き物や植物に触れ、命の大切さや四季の移ろいを感じ、関心をもって遊びに取り入れて楽しみます。



友達と共に探究心を育む環境

様々な友達と出会うことで、興味や関心、考えが異なることに気付き、新しい考えを生み出していきます。友達と共通の目的に向かって、それぞれが環境に能動的に関わることで協同性が育ち、友達関係が充実し、より深く遊び込むことができ、探究していく面白さに気付きます。



小学校
1年生(4月)

安心して自己発揮する

～1日の学校生活をスムーズにスタートするための環境構成の工夫～

入学したばかりの4月頃は、「学校は楽しい場所」「安心して過ごせる場所」と思えるような、環境構成の工夫が必要である。そこで、スタートカリキュラムを見直し、朝の活動（登校～朝の会前）の時間において、幼児期に大切にしてきた生活リズムに配慮し、児童が学校生活で安心して自己発揮できるよう工夫した。

教室環境の見直し

児童は朝登校してくると、自席でランドセルから荷物を机の中に戻したり、連絡帳を提出したりと朝の支度をやる。机をグループの形にしておくことで、友達の顔や行動を見ながら活動することができるような環境の工夫をした。それにより、今何をやるのか分からない不安や緊張感が和らぐ様子が見られた。また、一緒に活動したりおしゃべりをしたりすることで、友達作りが進んだ。さらに、積み木やリズム遊びなど慣れ親しんできた活動を取り入れることで、幼児期の経験を存分に発揮することができ、児童の安心や楽しさ、自己発揮につながった。



お絵かき
楽しいよ

友達の顔や姿を見ながら朝の支度や活動ができるような机の配置

何をつくっているの？



高くつみたいな

床にシートを敷き、自由に活動できる環境の工夫

踊ったことあるね



この曲知っているよ

皆で身体を動かしてウォーミングアップ (NHKForSchool 視聴)

様々な人との関わり

学級担任の他にも、担任以外の先生や上級生、ボランティアの方などに関わることで、皆に見守られていることを実感できるようになり、安心して活動することができた。

僕は初めてだから、楽しみだな

幼稚園で読んだことあるよ



先生、あのね

6年生による読み聞かせ

聞いて、聞いて

担任との朝の触れ合い



1年生の自立を手助けできるような6年生との関わり



地域や保護者にも広く募ったボランティアによる朝の読み聞かせ



机を前向きに直した朝の会など、徐々に学校生活に馴染めるような工夫

そして学習へ...



自らの思いや願いの実現に向けた活動の実践

合科的な学習により、ゆったりとした時間を確保して行った。春の季節をたっぷり感じられるような環境や、他学年や友達と自然に交流できるような環境の工夫をした。



【生活・体育】2年生に遊具の使い方を聞いてみよう



【図工・国語】つくったものを友達に紹介しよう

友達の姿を見たり、一緒に活動したりすることで、今何をするのかが分かったり、おしゃべりをする中で友達ができたりする。友達ができると、安心感、所属感が生まれていった。また、担任以外の先生や上級生と関わることで、皆に見守られていることを実感し、安心して自己発揮することができた。

就学前の経験は小学校生活の基盤になっているため、これからも、小学校教員と保育者で子どもの情報共有だけでなく、就学前の環境を一緒に確認し、それらを4月からの学校生活に生かしていく取組が必要だと感じた。

小学校
1年生(6月)

夢中になって学び込む

～ 生活科学校探検における「知りたい! 伝えたい!」を通して ～

入学して少し経ち、周りへの興味・関心が膨らんでくるこの時期、小学校の環境に触れ、上級生や先生方などとの関わりにも広がりを見せていた。そこで、知っていることや知らないことをクラスで共有しながら、「まだ知らないこと」「行ってみたいところ」をみんなで解決していこうと意欲が高まるようにした。2年生に知りたいことを聞くことができるようになり、自分の思いを伝える場を設定し学校探検を行った。さらに、それによって生まれた「もっと知りたい」という興味・関心を大切に、グループの友達と話し合いながら場所や人に関わり、分かったことを発信するまでの過程を楽しんで学習することができるようにした。

2年生に聞いてみよう!



理科室に行
ってみたい

音楽室はど
こにあるの
かな?

ここが図工室
なんだね!



学校のこと、先生のこと、もっと知りたい!

どんなことを聞いてみようかな?



どんなお仕
事をしてい
るのを知
りたいな

お仕事で使
っているも
のは何だ
ろう?

先生の好き
なものも知
りたいな

いつもどこ
にいますか
?

インタビューをしてこよう!

校長室には
何があれ
ますか?

いつも ど
んなお仕
事をして
いるので
すか?



【校長室】



【職員室】



【職員室】

【生活科】はじめまして がっこう

学校にはどんな場所があるのかなど知っていることを話し合った児童は、2年生に教えてもらう学校探検に期待を膨らませた。2年生に知りたいことを伝え、行ってみたいところへ行ったり、教えてもらったりしたことで、学校をもっと知りたいという気持ちが高まっていった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～

- ・友達と積極的に関わる。(協同性)
- ・新しい環境に興味や関心をもって関わる。(思考力の芽生え)
- ・いろいろな人と親しみをもって関わる。(社会生活との関わり)
- ・してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動する。(道徳性・規範意識の芽生え)

★他教科との関連

【学級活動】「学校生活のきまり」

【生活科】がっこう だいすき

学校には、いろいろな先生がいることが分かり、関わりが増えていったことでどんな仕事をしているのかを知りたいと思う児童が増えてきた。そこで、「もっと学校の先生となかよくなるためにインタビューをしてこよう」というめあてをたて、グループごとにインタビューする先生や聞きたいことを話し合った。話し合いの中で、児童からいろいろな質問が生まれ、インタビューの練習をしながら楽しみにしている様子だった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～

- ・もっと知りたいことを、もう一度調べに行く。(自立心)
- ・してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動する。(道徳性・規範意識の芽生え)
- ・学校内にある文字や数字などに関心をもつ。(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)

★他教科との関連

【道徳】「あいさつをすると」

どんなふうに みんなに しょうかいしようかな？



どんなふうに紹介するとい
いかな

使っているも
のはクイズに
したいな



好きなものク
イズのほうが
面白いと思う

どんな順番で
発表したら
いいかな？

ぼくは これを紹介したい！
写真をみんなに見せてあげたいな

【生活科】がっこう だいすき

インタビューでは、事前に話し合った質問をしたり、校長室や職員室、保健室などにあるもので「なんだろう？」と思ったことを教えてもらったりすることができた。児童は、「みんなに知らせたい！」を次々に見つけ、タブレットを使って写真に撮っていた。

グループでのインタビューを終えた児童は、調べたことをどうクラスみんなに知らせるかを話し合った。国語科の「みんなにはなそう」で学習した「クイズ形式」にしてみたり、写真を見せて話したりといろいろな方法を出し合っていた。また、発表の順番を決めて練習をする活発な様子が見られた。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～
・身近な物との関わりから気付いた情報を積極的に取り入れて活用し、楽しみながら伝え合う。
(社会生活との関わり)

★他教科との関連

【国語】「みんなに はなそう」

みんなに伝えよう！



今から、
〇〇先生の
紹介をしま
す



私が見つけた
ものは何でし
よう
〇で始まる言
葉です

お習字の授業をしているそうです

〇〇〇です
か？

【生活科】がっこう だいすき

発表では、自分で決めた方法で一人一つ紹介することにした。インタビュー時にタブレット端末で撮ってきた写真を大型提示装置に映し、友達に伝えるよう工夫して発表していた。

さらに、関連学習である道徳の時間では、学校探検で学習したことを思い出しながら話し合ったことで、学校生活を見守ってくれている人に感謝する思いやそれを伝えたいという気持ちが広まっていった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～
・相手の話を聞いて理解したり、言葉による伝え合いを楽しんだりする。

(言葉による伝え合い)

★他教科との関連

【道徳】「がっこうにはね・・・」

- ・就学前の児童は、様々な遊びを通して共通の目的に向かって一緒に活動することや、自分の思いや願いを言葉で伝えたり友達の考えを受け入れたりする経験をしている。幼児期に「協同性」や「社会生活への関わり」が培われているからこそ、児童一人一人の「もっと知りたい」が生まれ、友達と話し合いをしながら「もう一回見に行きたい!」「どんな仕事をしているのか知りたいな」「写真を撮る人を決めよう」など問題解決をしていく主体的・対話的な学びにつながったと考えられる。
- ・学校探検をするにあたっての約束やルールも教師が提示するのではなく、楽しく遊ぶ(活動する)ためにはルールがあると楽しく遊べる(活動できる)という児童の経験から必要な約束をみんなで考えることができた。
- ・生活科の学習を中心に児童から出てきた「職員室はどうやって入っていくの」「なんて話したらいいかな」などの疑問や気付きは合科的・関連的に学習することで、これまでの資質・能力が途切れることなく学習に生かされた。

保育所
5歳児(10月)

家庭との連携

～育ちのアルバムを通した保護者とのつながり～

育ちのアルバムを通して、今まで以上に子どもの気持ち分かるようになり、子どもを肯定的に受け止め、一層信頼を置くようになる。それが、子どもにも伝わり、より安心感を抱いたり自己肯定感を高めたりする。子どもの成長を喜び合える関係をつくることができる方法として、毎月一人一人の育ちのアルバムを作成し、保育者、保護者、子どもの三者が、育ちを共有している。



10月
『昆虫ハンターの
目がキラリ』

6歳2か月

【エピソード】

バケツを持って行き交うトンボを目で追ったり、バケツを振りおろします。友達のバケツの中もすかさずチェック。そっとバケツを持ち上げて、トンボをハントできたか、一緒に見守っています。



【スタッフの思い】

秋の醍醐味でもあるトンボがにぎやかに行き交う園庭で、バケツをアイテムに真剣な眼差しでハントの瞬間を狙っていました。多く見かけるのは2匹くっついて飛んでいるトンボ!! おもいぎりバケツを振り下ろした後は、中身を確認するのですが、そのドキドキワクワクの様子が表情からも伝わってきますね。試行錯誤しながらもあきらめずハントの瞬間に期待しながら何度も挑んでいる姿がとても逞しかったです!!

【ここが動いた5つの場面】

- ① 何かに興味を持っている
- ② 夢中になっている
- ③ チャレンジしている
- ④ 気持ちを表現している
- ⑤ 自分の役割を果たしている

【お家の方の思い】

トンボを捕まえるといったら、網か素手...とイメージしがちですが、まさか、バケツでも出来るとは考えもみませんでした。しかも、中身が見えない状態での、そっとバケツを開ける時の瞬間はとってもドキドキしそうです。この方法はよく考えましたね。子どもってすごい。お友達と共有しながら遊びを切磋琢磨し合っているのだな～と思いました。

【その後の保護者とのつながり】

5つの視点を通して子どもの姿を捉えることで保育者の思いが子育てのパートナーである保護者にも伝わり、今まで以上に子どもの気持ちに寄り添い、何かに関心を抱いた理由や行動の背景を共有することで、ともに子育てしている意識が深まる。また、遊びの中での学びが、小学校の学びの基礎となることを伝えていくことで、安心して接続期を過ごす様子が見られた。

【小学校と共有するために】

「ここが動いた5つの場面」に注目し記録したものをもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にし、一人一人の子どもの育ちを支える資料として小学校に引き継いでいる。